



かながわユースフォーラム2025
まだ見ぬ星をみつけにいこう

報告書

主催

かながわユースフォーラム2025実行委員会
神奈川大学社会教育課程 学生有志

かながわユースフォーラムとは 若者による社会参画型交流事業

知る

神奈川大学周辺の地域活動や地域課題について
学生が主体となり参加・調査を行います

考える

これからの地域活動や地域課題の解決に
学生がどのようにかかわることができるのか話し合います

広げる

自分にとって身近な地域での
地域活動・課題について視野を広げます

かながわユースフォーラムは今年で **6回目**

全体の企画も、分科会・パネル展の企画も、参加者も
真ん中にいるのは大学生を中心とした「若者」
普段自分が暮らす街には、
どんな人がいるんだろう、どんな場所があるんだろう
そんな興味のきっかけを提供する場が
かながわユースフォーラムです

代表あいさつ

かながわユースフォーラム2025
露口遥菜(人間科学部3年)



かながわユースフォーラム2025代表の、人間科学部3年露口遥菜です。
参画者として、「どうすれば楽しく地域について知ってもらえるか」を考え続けた半年間でした。
自分たちが参加者だったときに感じたことを、このフォーラムの企画に活かせるのではないかと思います。
当日までうまく人を巻き込むことができるのが不安でしたが、参加者のみなさんが積極的に参加してくだ
さったこと、実行委員のみなさんも笑顔で全力で取り組んでいる姿を見ることができ、やってよかったと
思える1日となりました。参加者から、「知らなかったことを知ることができた」という声がありました。
私たちが作りたかった「知るきっかけの場」を作ることができたことと実感するとともに、
「まだ見ぬ星をみつけにいこう」という想いを伝えることができたのではないかと思います。

かながわユースフォーラム2025 まだ見ぬ星をみつけにいこう



今年のユースフォーラムのコンセプトは
まだ見ぬ星をみつけにいこう

このユースフォーラムに参加することで、
これまで地域活動やボランティアに参加していた人も
いままで参加していなかった人も、知らなかった人も
これから「参加してみようかな」と思ってもらえるような
きっかけを提供したい、自分に輝きかける星を
見つける場所にしてほしいという思いが込められています

コンセプト：まだ見ぬ星をみつけにいこう

キーワード：きっかけ、知る

ゴール：知識の差や関心の有無にかかわらず、
参加者が社会教育や地域活動について知る場にする

舞台は宇宙！

参加者は「見習い宇宙飛行士」として
各分科会＝星を探索するといったテーマを設定し、
社会教育や地域活動に、少しでも
「楽しい」や「自由」のような印象を
持ってもらえるような工夫をしました



「縁の下の力持ち」

全体会紹介

【企画・運営メンバー】

露口遥菜 翁川千季 佐々木真白 的場美遼 水島星那

【活動内容】

☆当日まで

フォーラムコンセプトの決定、各分科会との連絡、外部団体との連携
「生涯学習論」・「ボランティア論」への授業訪問、分科会振り分け
パネル展示企画、当日スケジュール表作成、開会式動画作成

☆当日

受付、開会式・閉会式進行、報告書用写真の撮影
参加者の誘導、パネル展示運営

☆終了後

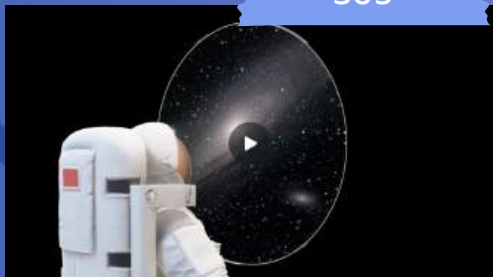
note作成、アンケート分析、報告書作成



当日プログラム

【開催日時】
2025年7月5日(土) 13:00-16:00

305



13:00 開会式

301

防犯星 -地域防犯×学生-

〈テーマ〉
守ろう。地域の子供たち!

〈目的〉

- ・地域の子供たちを守るためにできることを考える
- ・地域と大学生の繋がりを作り防犯の意識を高める

13:30~15:30

302

町内会の活動をのぞいてみよう!

蚊退一住みやすい街づくり

町内会×学生

地域課題となった「蚊の発生」をテーマにイベントを企画・実施しました!
イベントの開催と共に、町内会の活動における学生の可能性についてみんなで考えるグループワークを行います!

分科会発表・パネル展示開始



307

子どもマイ星

今後の外遊びのあり方を考えよう!

子ども × 外遊び × 大学生

さまざまな角度から「子どもたちの外遊びのあり方」についてワークを通して一緒に考えてみませんか?

308

ベジたべる星 (食農ベジ星)

目的

- ・地産地消に向けた取り組み
- ・農業に関心・興味を持ってもらう
- ・特産物を知ってもらう

学食王は俺だ!

当日の分科会では、地産地消の取り組みのため、神奈川県の特産物である「横浜キャベツ」を使った学食を考えるワークショップを行います。実現は2025年秋頃に生産の方々との協力を経て、実現予定です。

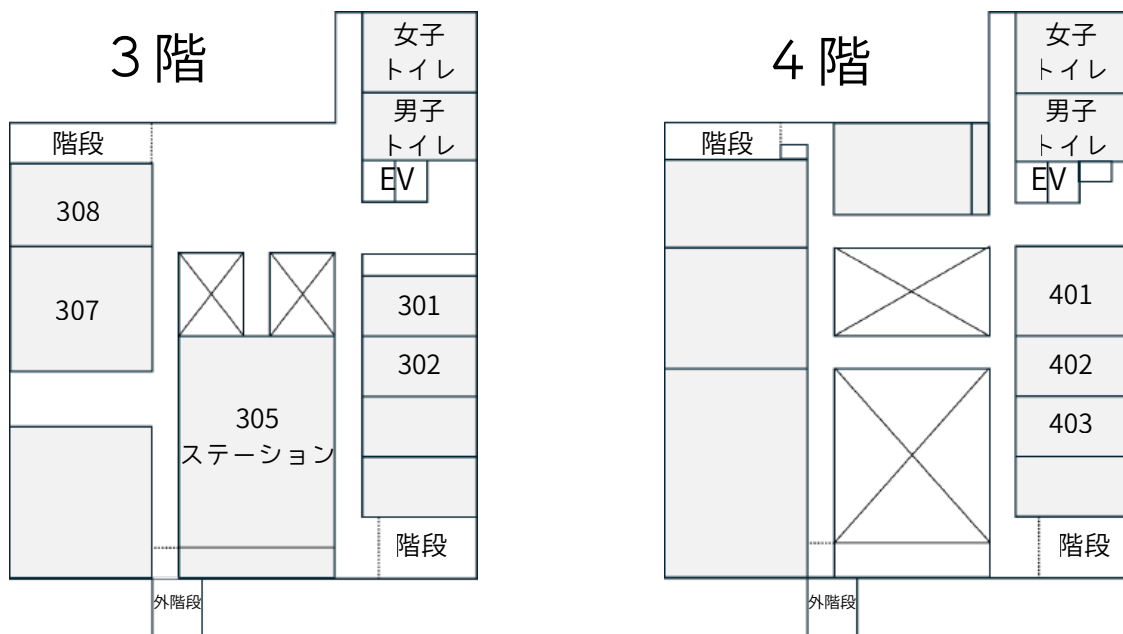
開会式

開会式では
フォーラムの目的・当日の流れに加え
「もっと世界観に没入してほしい!」
という思いから、式冒頭では
フォーラムの概要を示した動画を作成しました。

分科会

今年コンセプトに基づき、
各分科会を「まだ見ぬ星」
参加学生を「見習い宇宙飛行士」として
社会教育や地域活動について「探索・調査」
してもらおう!という仕掛けがあります!

会場図【開催場所】神奈川県 横浜キャンパス 3号館



401



402

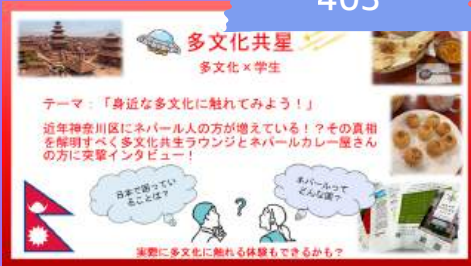


約300名の方が
参加してくださいました！
ありがとうございました！

15:40 閉会式

16:00 終了

403



305



305



パネル展示

今年は全部で10団体にご協力いただき
パネル展示を実施することができました。
また、初めての試みとなる「ブース発表」を実施し
より活気のあるパネル展示となりました。
実行委員が参加者として感じていた
「もっとこうしたい！」を実現できました。

閉会式

閉会式では
一日を通して、各分科会代表からの振り返りや
参加者アンケートを実施しました。
また、分科会のひとつである
「ベジたべる星」の「学食王」を
決定するアンケートを実施しました。

パネル展示の流れ

- ① パネル展示参加者をAグループとBグループに分割
- ② Aグループがブースありパネル、
Bグループが展示のみのパネルを閲覧
- ③ 約15分でAグループとBグループを入れ替え
- ④ パネル展示終了後各分科会へ移動



ブースを見るよ！



ブースを見るよ！



展示のみを見るよ！



展示のみを見るよ！



※ブースありパネル：5団体 展示のみパネル：5団体

星(分科会)紹介

分科会ができた経緯

2025年3月に行われた打ち合わせで「分科会の共通認識」を確認しました。

「知ってもらう」
「自分で考える時間」
「NO講義形式」

この3つを大切に、
各分科会企画を行いました。

この「星紹介」では
当日の内容と学生のコメント
を紹介します！

3月の打合せで話した分科会案

1. 青少年活動支援
→学生の社会参画支援には何があるかな
2. 商店街
→学生が商店街と関わる機会はあるかな
3. 居場所づくり
→学校でも家でもない場所について考えよう
4. 子育て支援
→学生は子育て支援にどのように関われるかな
5. 地域活動
→学生が地域とつながりを持つきっかけはあるかな
6. 動物共生
→ペットを飼う人・飼わない人も住みやすいまち
7. 障がいをもつ人への支援・関わり
→大学のバリアフリー化にどのように携われるか
8. 農業
→都市型農業や地産地消について考えてみよう
9. 豊かな海づくり
→横浜市の海の資源はどのように活用できるか
10. 芸術による地域活性
→芸術を通して地域コミュニティは形成できるか

こども外遊び学生 **こどもマイ星** 「今後の外遊びのあり方を考えよう！」

【実施概要】

「こどもにとっての理想の公園づくり」のグループワークや自分たちの経験談の発表を通して、参加者にこどもの外遊びや、どのように外遊びと関わっていくか考えてもらう機会とした。

【企画・運営メンバー】

梅木美優 河野南月 佐橋莉菜 鈴木仁翔
関野結仁 西村杏雪 菱川太地

【アドバイザー】

木下直子 / 地域コーディネーター

【協力団体】

神奈川県地域子育て支援拠点かな-ちえ、片倉うさぎ山プレイパーク、神大寺学童クラブ

【代表コメント】

参画メンバー一同、こどもの外遊びについて知らないことが多いところからのスタートでしたが、実際にこどもたちと遊ぶという経験を通して、たくさんの学びを得ることができました。社会教育課程を始めたばかりのメンバーも多かったですが、全員にとってとても良い経験となりました！今後も、大学周辺というフィールドを中心に、こどもたちの外遊びに関わる活動に参加していきたいです☆三

【参加学生の声】

どのような工夫をしたらこどもたちがより楽しくなるかを考えながら理想の公園を作るのはとても楽しかった。今日考えた公園が実際にできたらいいなと思った。



「学食王は俺だ！横浜キャベツ編」

【実施概要】

神奈川県がある神奈川県は横浜キャベツの生産量が市内一位であることから、横浜キャベツを使用した学食のメニューを考案するグループワークを実施した。ワークを通して、地産地消の意識を持ってもらえたと考える。

【企画・運営メンバー】

奥山礼菜 岩淵朱莉 鎌倉聖 古田結珂 与那覇新菜

【アドバイザー】

益田麻衣子 / 地域コーディネーター

【協力団体】

神奈川県大学生協、ジョイファーム小田原、小澤園芸、メルカート、神奈川県役所、ハマ農家

【代表コメント】

3月に小田原の農家さんにお話を聞くところから始まり、神奈川県の農家さんやメルカート神奈川店、神奈川県役所で開催されている【かながわ野菜市】などたくさんの場所に訪れました。心が折れそうになりましたが、この5人でやり遂げることができて本当に良かったです。とても良い経験になりました。

【参加学生の声】

キャベツの特徴を知り学食のメニューを考えることで神奈川県で作られている野菜について知ることができた。取り入れられるところは取り入れて地産地消に繋がったらいいなと思った。



「身近な多文化に触れてみよう！」

【実施概要】

インタビュー動画上映やネパール文化体験、グループディスカッションを行った。神奈川県の外国人住民の声に耳を傾けながら、多文化への理解や興味関心を深め、地域での共生について考える機会とした。

【企画・運営メンバー】

永喜若菜 池内颯花 小平寛太 櫻井彩加 陶嗣嘉 平野愛美

【アドバイザー】

呉恒鈺 / 神奈川県立大学大学院人間科学研究科 修士2年

【協力団体】

神奈川県多文化共生ラウンジ、ガネーシャガール白楽店

【代表コメント】

今回行ったフォーラムを通して、私たちがどのように外国人の方と関わることができるかを考え、多文化について興味や関心を持つことができたという参加者の声が多くあり、多文化共星班一同とても嬉しく思います！私たちも4月からの活動を通して多文化が身近なことであることを学び、多文化に対する意識が大きく変わりました。今後も多文化について向き合い、学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思います。

【参加学生の声】

謎の香辛料の匂いを嗅ぐだけでなく食べさせていただくという貴重な体験から、外国人目線で見た日本の様子、文化の違いから起きていること、困っていることを知るきっかけになった。



「住みやすいまちづくり」

【実施概要】

近年では、若い世代の人たちの町内会の参加率が低下している。そこで、どのような工夫をすれば参加率を向上させることができるのかを、学生の目線から考える場を提供した。

【企画・運営メンバー】

神奈川大学 経済学部 寺嶋ゼミ / 3年

【アドバイザー】

寺嶋正尚 / 神奈川大学経済学部教授

【協力団体】

斎藤分南部町内会

【代表コメント】

昨年の冬から町内会の課題について調査し、今年の4月からは斎藤分南部町内会の方々と話し合いを進め、住みやすい街づくりや世代を超えた交流を実現できるイベントにするために考えてきました。自分たちで立案から運営までを行うことは大変でしたが、非常に貴重な体験ができてよかったです。

この分科会が、学生が自分の住む地域のために何ができるかを考えるきっかけになってほしいと思います。

私たちも、自分の住む地域のために何ができるかを考え、実行していけるようになりたいと思います！

【参加学生の声】

町内会が多くの人に楽しんでもらえるよう試行錯誤していることを知り、今度地元の町内会イベントに参加してみようと思った。



「守ろう。地域の子供たち！」

【実施概要】

警察署との取り組みや地域防犯の現状を共有し、大学生や地域が子供たちに対してできることをグループワークや実際の防犯対策を通して考えてもらった。大学生の防犯意識向上につながった分科会であった。

【企画・運営メンバー】

神奈川大学 経済学部 寺嶋ゼミ / 4年
産業能率大学 武内ゼミ

【アドバイザー】

寺嶋正尚 / 神奈川大学経済学部教授
武内千草 / 産業能率大学経営学部教授

【協力団体】

戸塚警察署

【代表コメント】

今回の分科会を通して、地域の防犯に興味を持ち、将来子供たちのために地域活動への参加する人が少しでも増えると嬉しいです。また私自身も地域での犯罪の現状や実際の被害を知り、防犯への理解や意識が高まりました。我々、寺嶋ゼミ・武内ゼミ共に今後もチーム戸塚として地域のため・子供たちのために活動を続けていきたいと思っています。

【参加学生の声】

地域の子供たちの安全を守るために何ができるか、などを話し合いました。グループでの発表の際には他のグループの斬新なアイデアを聞くことが出来て面白かったです。また簡単な護身術を軽い実践と共に学ぶことが出来ました。



ワーク キャンプ 学生

ボランティアで広がる人星 「一歩踏み出して、知らない世界を見に行こう」

【実施概要】

ワークキャンプに参加した学生が自身の体験談を語り、その後参加した神奈川大学の学生たちと意見交換を行った。ワークキャンプという活動を知ってもらうことや、自分自身が感じている今の大学生活や今後のやりたいことなどを話し合う機会にした。

【企画・運営メンバー】

辰己小真姫 磯田そら 田村優博 阪東直哉
吉澤夢花 金坂孟 永田拓夢

【アドバイザー】

磯田浩司 / NPO法人グッド 代表・神奈川大学非常勤講師

【協力団体】

NPO法人グッド

【代表コメント】

今回の分科会を通して、多くの学生にワークキャンプの魅力が届けられたと思います。約30人の学生の前で話すこと、初めて会った5人グループの中でうまく会話を回すことなど、私たちにとても初めての経験となりました。神奈川大学とNPO法人グッドとの繋がりが、これからも続くよう願っています。

【参加学生の声】

実際に海外に行った方が話を下さり、とてもイキイキとしていて楽しそうだとすごく興味が湧いた。



青少年の 居場所 学生

あおテラス 「あおばコミュニティ・テラスの日常的な 利用者を作るにはどうしたらよいか」

【実施概要】

地域活動拠点へ来てもらうためにできることは何か、その方法を実際に活動拠点として運営している「あおばコミュニティ・テラス」を基にした条件で、運営側の立場に立ってディスカッションを行った。

【企画・運営メンバー】

青木祐弥 池田光風音 太田千鶴 佐野碧 佐竹優芽 清水大誠

【アドバイザー】

竹原和泉 / あおばコミュニティ・テラス
チーフコーディネーター

【協力団体】

あおばコミュニティ・テラス

【代表コメント】

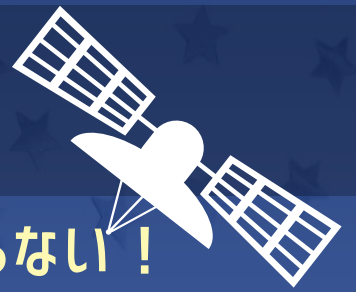
今回の分科会を通して、青少年の活動拠点や居場所とした施設があることや社会教育について興味を持ってもらえて嬉しいと共に、あおばコミュニティ・テラスについても知ってもらえると嬉しいです。

【参加学生の声】

各世代がいつでも来たいと思える施設を作るにはどうすればよいかを予算や周囲の条件から考え、意見交換ができて自分には無かった考え方も知ることができ、自分なりに良い計画案を出せてすごく有意義な時間だった。



ステーション探索(パネル展示)



今年のパネル展示は「見るだけ」にとどまらない！

先輩たちが作りあげてくださった「パネル展示」の形式に新たな試みを取り入れたいと思い、各団体のパネルについて双方型で説明や紹介をしていただき、その場で質疑応答を行うことができるブースを設置しました。

当日お越しくくださった方々ありがとうございました！

またパネルに関する様々なクエスチョンについて参加者の皆さんに考えてもらいました。

ブースありパネルと展示のみパネルの2クールで展開し、例年とは一味違う、より活気溢れるパネル展示となりました。

ブースありパネル



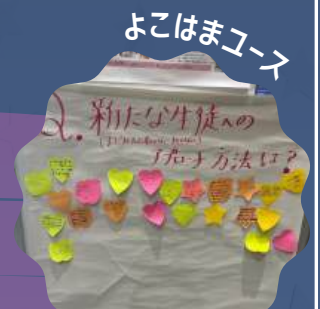
神奈川県区政推進課

「2年後何の年が知ってる? ~2027年に向けて~」

神奈川県区政推進課と全体会が共同してGREEN×EXPO 2027に関するパネルを作成しました。マスコットキャラクターやビレッジの紹介、大阪万博との比較を行いました。

「ようこそカフェ・さくらリビングに行ってみた」

よこはまコースが運営する「ようこそカフェ」の活動を紹介していただきました。また社会教育論で「さくらリビング」に訪問した際の報告もしていただきました。



よこはまコース

社会教育論

捜真女学校高等学部



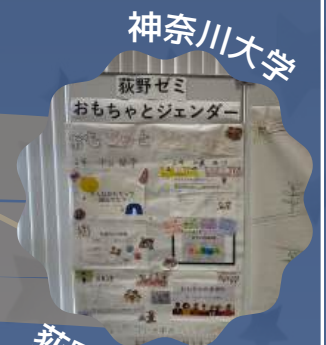
横浜市立東高等学校

「高校生とSDGs」

捜真女学校高等学部が行う「カラ・ぷるじゅくと」と東高等学校「サスティナブル研究部」の紹介をしていただきました。

「おもちゃとジェンダー」

遊びやおもちゃの男女差・多様性に関するパネルを作成していただき、「ジェンダーフリーのおもちゃは必要なのか」を考えてもらいました。



神奈川大学

荻野ゼミナール

神奈川大学



学生ボランティア活動支援室

「学生ボランティア活動支援室に来ると何ができるのか？」

学生ボランティア活動支援室の活動を紹介していただき、どんな分野のボランティアに挑戦してみたいか考えてもらいました。

展示のみパネル

神奈川県立青少年センター
潜在的なボランティア層への支援

「潜在的なボランティア層への支援」

野外炊事の定番であるカレーづくりと青少年センターのキャンプ事業について紹介していただきました。

神奈川県立青少年センター

NPO法人

アクションポート横浜
街にたくさんの主人公を

「街にたくさんの主人公を」

「NPOインターンシップ横浜」や「横浜アクションアワード」などアクションポートが行う様々な活動を紹介していただきました。

アクションポート横浜

神奈川県立青少年センター

食育わくわく体験
食と農の学び

「食と農の学び」

玉ねぎや梅の収穫、アジ捌きの様子を報告していただき、「あなたの地元の有名な農水産物」を聞いてみました。

食育わくわく体験

神奈川県立青少年センター

「JIN-KANA学習塾の活動」

「学習支援に通う中学生はJIN-KANA学習塾で何を学んでいるのか?」「大学生が作れる居場所とは?」について考えてもらいました。

JIN-KANA学習塾
JIN-KANA 学習塾の活動

神奈川県立青少年センター

食育わくわく体験

「目指したい未来：SDGsから考える」

「PROJECT45L」の紹介や「こえび隊」でのボランティア活動についての報告を行っていただきました。

目指したい未来：SDGsから考える
ボランティア学習論

JIN-KANA学習塾

全体の感想

【参加学生より】

- ・主体的に参加できるブースが多く、社会教育についてじっくりと思考をめぐらすことができました。実践的なものもあってとても勉強になった。
- ・今年はテーマがとても良いと思いました。分科会を星とみなす視点はすごく新しく面白かった。開会式のムービーが凄かった。
- ・（ブースありパネルについて）昨年より回りやすく、1つのブースについて詳しく見ることができた。

【出展者より】

内容も運営も、学生のみなさんが一つ一つ工夫してつくりあげていることがすぐに伝わりました。発表されている個々の中身もちろん素晴らしいですが、一人ひとりのパッションと多様なアクションが集うとき、全体としてこんなにも素晴らしい空間が生まれるということに感銘を受けました。地域の大人として、社会をともにつくる仲間として、私たちが引き続き努力を尽くしたいと思います。まだ見ぬ星にあふれたこの日の神大で、多くの出会いがありましたね。それはあたかも、星が星座として結ばれる瞬間のようでした。



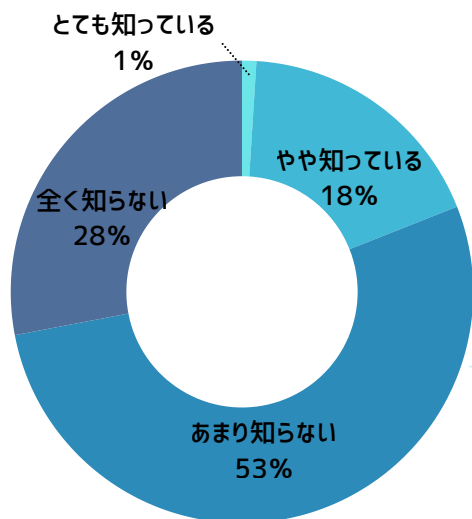
「かながわユースフォーラム2025」ふりかえり

今年のかながわユースフォーラムは参加者310名、関係者99名の計409名が来場する結果となった。
また、当日に参加した学生(256名)を対象にMicrosoft Formsでアンケートを行った。

— フォーラムが「知るきっかけ」になった！ —

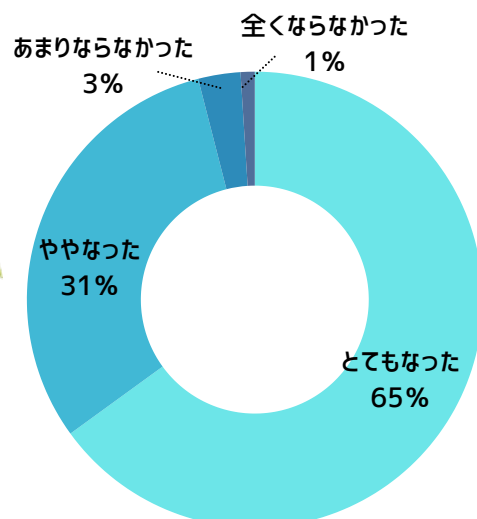
参加前 地域について知らない **81%**

現在、行われている地域活動（神奈川大学周辺）
についてどの程度知っているか n=211



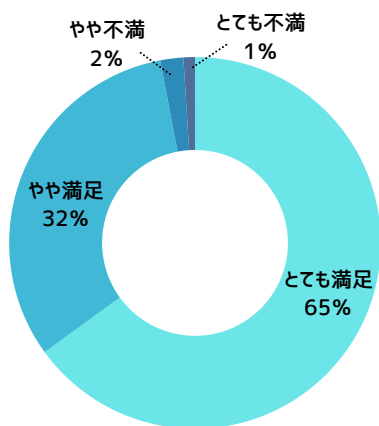
参加後 知るきっかけとなった **96%**

地域（神奈川大学周辺）について「知る」
きっかけとなったか n=211



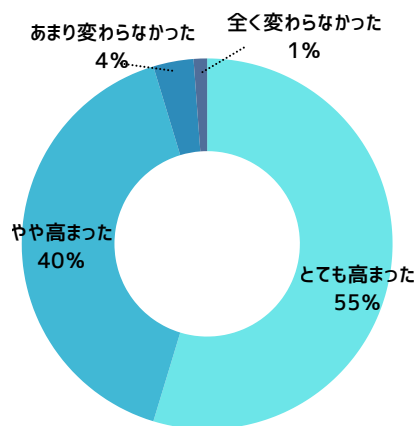
— ほかにもこんな効果が！ —

「かながわユースフォーラム2025」
の満足度 n=256



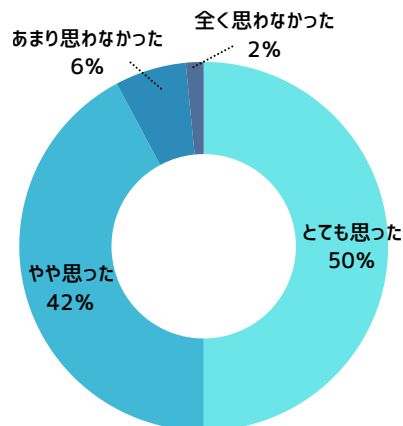
参加者の満足度 **97%**

地域（神奈川大学周辺）への
興味・関心が高まったか n=256



興味・関心が高まった **95%**

今後、地域活動（神奈川大学周辺）
に参加したいと思ったか n=256



参加したいと思った **92%**

まとめ

実行委員が目標としていた「これまで知らなかったことを知るきっかけの場にしたい」という目標が達成されたように感じられる。また、アンケート結果を見ると知るきっかけの場だけでなく、実際に活動してみようとする意欲の向上にもつながったことから、コンセプト以上の効果を得られた。

さらに、初の試みとなったブースありパネルでは「説明がわかり理解が深まった」、「気になった点を質問できてよかった」など双方向型ならではの好意的な意見が多く見られた。一方で、「声が混ざり聞き取りにくかった」、「もう少し時間を取ってもよかった」という意見もあり、今後ブースありパネルを継続していく際には改善する余地があることもわかった。

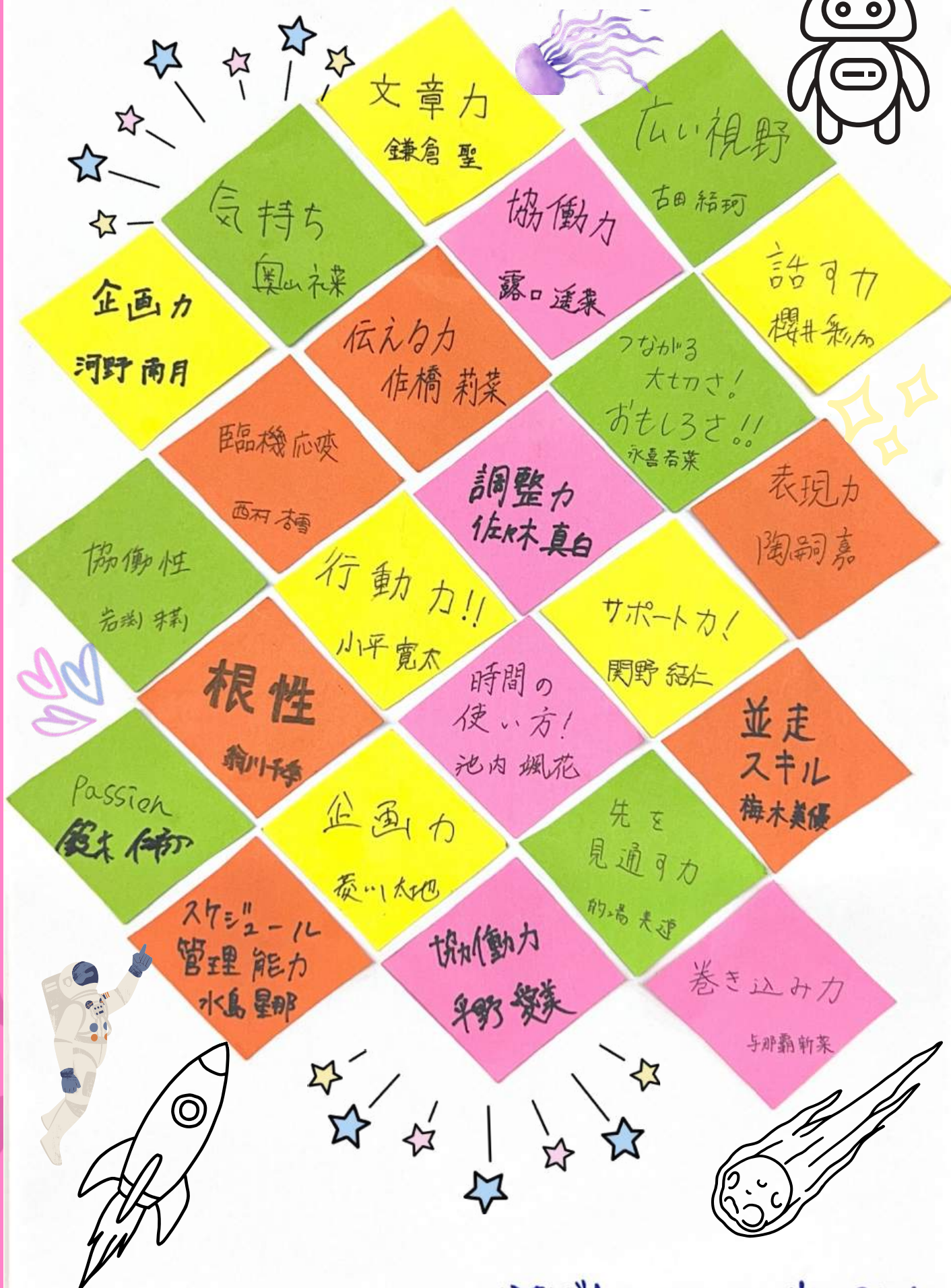
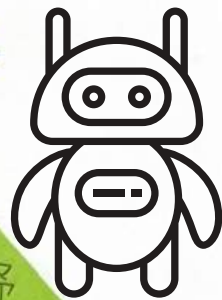
今回のフォーラムをきっかけとし、実際に地域活動への参加につながることを期待する。



memories

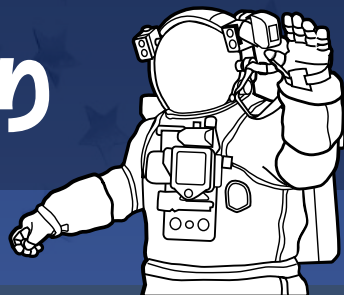


井ユースフォーラムで成長したこと



かながわユースフォーラム 実行委員会

先生・地域コーディネーターより



神奈川大学 経済学部 教授 寺嶋正尚

本年度も「かながわコースフォーラム2025」が無事に開催されましたこと、大変嬉しく思います。分科会、ポスターセッションに参加された皆さん、そして何より運営スタッフの人たち、お疲れさまでした。頑張りましたね。開催にあたって、様々な方々にお世話になりましたこと、深く御礼申し上げます。本プロジェクトを通じて、学生は日ごろの座学の授業とは一味違う、生き生きとした、主体的かつ能動的な学びの姿勢を見せてくれました。私自身も、こうした意義深いプロジェクトに携わることが出来、大変幸甚に思います。有難うございました。

神奈川大学 人間科学部 教授 社会教育課程 担当教員 齊藤ゆか

Experience is the best teacher.
(経験こそが最高の教師)

誰もが経験があったわけではない。むしろプロジェクトを初めて任された。一人ひとり役割を持ち、メンバーの想いに従って自由に意思決定する若者参画型交流事業。始動は2020年。

教師の役割はなんだろう。第一段階のテーマ決定に付き合い、学生のやる気を引き出すこと。第二段階は、基本的な知識や企画運営のサイクルや手順を理解させること。第三段階は、メンバー間のコンフリクトを眺め、課題を乗り越える道筋を見つけること。第四段階は、いかに参加者に魅せるか、各々のオリジナリティが光る環境を整えること。第五段階は、参加者が集まる仕掛けを創ること。

大人は「余計な口出しはしない」「待つ」「見守る」。コースの経験値を高める豊かな機会と学び。いかにサステナブルに若者参画が守られるか。しっかり考えたい。みんな、ありがとうね！

社会教育課程 地域コーディネーター 益田麻衣子・木下直子

「知らないことを知ることを楽しさを体験してもらいたい」という最初の打ち合わせで決めた目標を、最後まで貫いたフォーラムだったと思います。フォーラム当日は、参加してくれる方々を楽しませたいというみんなの気持ちの集大成でした。社会教育を学び始めたばかりの学生も多くいた運営チームでしたが、迷いながらも、最後の結束力は目を見張るものがありました。これからも、社会教育の楽しさを多くの人に伝えていってほしい。



クレジット

主催

かながわユースフォーラム2025実行委員会
(神奈川県社会教育課程学生有志)

★代表

人間科学部 人間科学科 3年：露口遥菜

★メンバー (学部学科別、五十音順)

人間科学部 人間科学科 3年：池内颯花 岩淵朱莉 梅木美優
翁川千季 鎌倉聖 櫻井彩加
佐々木真白 関野結仁 永喜若菜
的場美遼 水島星那 古田結珂
与那覇新菜

法学部 自治行政学科 3年：奥山礼菜 小平寛太
鈴木仁翔 平野愛美

法学部 法律学科 3年：菱川太地

経済学部 経済学科 3年：佐橋莉菜 陶嗣嘉 西村杏雪

国際日本学部 国際文化交流学科 4年：河野南月

★4年生 学生サポーター (学部学科別、五十音順)

人間科学部 人間科学科：塩澤凌生 高木柚香 藤田悠菜
三田村捺希 宮内春菜 安田美咲姫

経済学部 経済学科：高梨瑛士 永井智紘

経済学部 現代ビジネス学科：藏並弘大

★大人アドバイザー (神奈川県)

齊藤ゆか(人間科学部教授/社教)

寺嶋正尚(経済学部教授/社教)

荻野佳代子(人間科学部教授)

鈴木英夫(法学部特任教授/教職課程/JIN-KANA学習塾主宰)

中川理絵(化学生命学部准教授)

高井正(社教 非常勤講師)

磯田浩司(NPO法人グッド代表/社教 非常勤講師)

益田麻衣子・木下直子(社教 地域コーディネーター)

★学外協力者・参加者

新井昂太(捜真女学校入試広報室)

古橋卓(横浜市立東高等学校サステナブル研究部顧問)

宇佐美健彦(神奈川県立青少年センター指導者育成課主幹)

長南悠太(神奈川県立青少年センター指導者育成課主査)

坂井宏彰(神奈川県立青少年センター指導者育成課主事)

松山雄貴(横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課生涯学習係長)

岡本健太郎(横浜市神奈川区総務部市政推進課企画調整係)

藤澤 愛(横浜市神奈川区総務部市政推進課企画調整係)

塩嶋瑶子(公益財団法人よこはまユース事業企画課)

竹原和泉(あおぼコミュニティ・テラス チーフコーディネーター)

萩谷秀人(斎藤分南部町内会会長)ほか町内会有志の方多数

東田信子(神奈川区地域子育て支援拠点かな-ちえ施設長)

岩間良一(神奈川区多文化共生ラウンジ施設長)

高城芳之(NPO法人アクションポート横浜代表理事)

安信昌子(横浜市六角橋地域ケアプラザ地域活動交流コーディネーター)

(敬称略、順不同) (略称：社会教育課程=社教)

協力

★神奈川県

資格教育課程センター

JYSP事務局

学生ボランティア活動支援室

生活協同組合

★学校

捜真女学校高等学部

横浜市立東高等学校

産業能率大学 (武内千草ゼミナル)

★行政

横浜市

横浜市教育委員会

神奈川区

神奈川県立青少年センター

神奈川県警察 戸塚警察署

小田原市

★民間

神奈川区社会福祉協議会

神奈川区斎藤分南部町内会

神奈川区多文化共生ラウンジ

神奈川区地域子育て支援拠点かな-ちえ

公益財団法人よこはまユース

あおぼコミュニティ・テラス

NPO法人グッド

NPO法人アクションポート横浜

(順不同)

★編集委員会メンバー

梅木美優

露口遥菜

的場美遼

水島星那



今年度のユースフォーラムでは、宇宙を舞台にする、ブースありパネルなど、いままでと違う新しい取り組みが多くありました。次年度以降も、さらなる工夫を重ね、つなげていってほしいと思います。また、今年度のユースフォーラムに際し、協力してくださった皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

(編集委員会一同)